

(9)② 不登校になる前段階の対応(家庭訪問)

児童生徒に欠席が続いたときには、電話だけでなく、教職員自身が直接会って話をすることも必要です。しかし、時には家庭訪問が児童生徒に抵抗や不安をもたらすこともあるため、保護者とも相談しながら目的意識をもって慎重に対応することが大切になります。

家庭訪問のポイント

家庭訪問でめざすのは、児童生徒や保護者との信頼関係を築くことです。児童生徒に「心配しているよ」というメッセージを伝え、保護者の不安や心配事に寄り添うことが、信頼関係を築く第一歩になります。

アポイント

- ・家庭訪問する際は、事前にその旨を保護者に伝えます。
- ・保護者の意向も確認しつつ、児童生徒の緊張が和らぐ放課後の時間を選ぶなど、会いに行く時間を検討します。

めざすのは児童生徒や保護者との信頼関係を築くこと！

訪問前

- ・事前打合せで訪問者を確認します。
- ・担任だけが抱え込むことなく、可能な限り複数人で対応します。
- ・訪問直前には「今から訪問します」と保護者に伝えるなど丁寧に対応します。

訪問中

- ・興味関心があることなど、本人が話しやすい話題を大切にします。
- ・この時点での励ましや説教などは、逆効果になりがちです。本人のペースを大切にすることを伝えることで、安心感をもたせるようにします。
- ・心の状況に不安があれば、スクールカウンセラー等のカウンセリングや、教育支援センターの教育相談等を提案します。

本人に会えなかった…

- ・本人と会えなくても保護者とは連絡を続け、心配してるというメッセージを伝えます。
- ・本人と直接会えない場合は、保護者と話をしたり、プリント類を置いてきたりするだけでも十分に意味があります。

訪問後

- ・訪問後も、保護者に連絡し、その後の本人の様子を尋ねます。
- ・訪問結果を記録し、関係する職員間で共有します。
- ・対応に悩む場合はSC(スクールカウンセラー)に相談します。

安否が確認できないときは…

- ・家庭訪問や電話連絡を繰り返しても児童生徒の安否が確認できない場合は、所管の教育委員会と相談して、児童相談所等への通告、警察への情報提供なども検討します。